

平成 22 年 5 月 10 日現在

研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2007～2010
課題番号：19360281
研究課題名(和文) 建築史研究における日本の方法によるフランス・ロマネスク建築の建築考古学研究
研究課題名(英文) Building archeological study on the French Romanesque Architecture based on the Japanese architectural methodology
研究代表者
西田 雅嗣(NISHIDA MASATSUGU)
京都工芸繊維大学・工芸科学研究科・准教授
研究者番号：80198473

研究分野：建築史

科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠

キーワード：(1) ロマネスク建築 (2) 建築考古学 (3) 建設現場 (4) 尺度論
(5) 日本の建築観

1. 研究計画の概要

建築史研究において伝統的に日本的な方法である「建築考古学」をフランスの比較的小規模のロマネスク建築に適用し、ロマネスク建築が中世の社会や人々の心性の中でどんな形で、如何なる意味を持って建設されたのかを明らかにする。当時、建築を実際に構想した者たちや実際に建てた建造者たちが、実際に何を考え、何を意図し、何を実現したのか、建設の現場で、実際に何が考えられ、何が行われ、何が起こっていたのかを、そしてそれらが当時の社会の中でどのように考えられていたのかを、モノとして眼前に存在する建築物の石や柱や細かな寸法を詳細に観察し、記述し、記録し、分析し、考察し、建物そのものに語らせしめる。モノを対象に行われる「考古学」が、建築物を通して浮かび上がらせるロマネスク建築の社会精神史研究である。特に、西洋の研究者の間では未開拓の分野である寸法・尺度の建築考古学に重点を置き、日本の方法がロマネスク建築研究においても一定の有効性があることを示す。また、フランスの専攻研究者との交流を密にし、調査で得られた情報の共有をはかり、ヨーロッパにおいても近年注目を浴びている建築考古学が伝統的な日本の方法であることとその有効性をフランスに発信する。

2. 研究の進捗状況

(1) 平面の実測を中心としたロマネスク教会堂の建築考古学調査を、既に 12 の教会堂について実施した。軸のずれ、直交直角からの歪み、数々のイレギュラーを再現した実測

平面図も、既に 8 の教会堂について作成している。

(2) 実測データ、実測平面図をもとに教会堂建設に用いられた物差し、教会堂に与えられた寸法の分析を行っている。尺度導出の方法は概ね確立し、各教会堂について使用された尺度、各部寸法を明らかにしている。ある種の傾向を引き出せる感触を得ている。

(3) 建築考古学調査、実測調査、導出した尺度・寸法をもとに、建築計画法、建設過程、建設法の考察を、調査を行った建築について行い、これまで気付かれずに来た幾つかのロマネスク建築のあり方が明らかになって来ている。内陣の矩形部や交差部の重要性、内陣と身廊の様々なレベルでの断絶、装飾プログラムの意味、などについては既に若干の成果の発表を行った。

(4) 実測を中心とする建築考古学の方法が日本の建築史研究の方法であり、これがロマネスク建築研究についても有効であることを、フランスの専攻研究者たちとの不断の協力関係を通して理解してもらう努力を行っている。目下フランスで注目を浴びている建築考古学は基本的に日本の方法であること等、理解を示す研究者も現れ、フランスでのロマネスクに関する学術論文の幾つかに日本建築についての言及が現れた。

(5) 建築考古学という方法論を共通の場として日本建築史研究とフランスの中世建築研究の交流を図るべく、日仏シンポジウムや日仏の研究者での共著を計画している。関係するフランス人研究者による日本でのシンポジウム等には積極的に関与し、日本の研究

方法の発信を行っている。中世建築分野での著名研究者も招聘し日本建築を紹介し、日本の方法の建築考古学の理解を広めつつある。

(6) 上記 (5) との関係で、極力フランス投での研究成果の公表に務め、既に国際学会で二度の研究発表を行った他、フランスの関大学等でのセミナーでも発表等を行っている。

3. 現在までの達成度

②概ね順調に進展している。

(理由) 実際の調査に関しては協力を得られる幾つかの公的、学術的団体が現れ、きわめて順調である。調査結果の図面化、整理・保存、情報の共有化に関しては概ね順調であるものの、調査自体の展開からは僅かながらの遅れが見られる。研究室が所蔵する 35mm スライドのデジタルデータ化は、ほとんど手を付けられない年度もあり最も遅れている項目である。研究成果やけや日本の方法のフランスへの発信に関しては、当初は多少の困難を予想していたが計画以上に進展している。

4. 今後の研究の推進方策

35mm スライドのデジタルデータ化は、必要最低限のものにとどめ、当初計画していた、現有資料、データのアーカイブ化計画の重要度を低くする。調査とフランスへの発信という、ともすると相手側の状況に左右され勝ちな項目が、フランス側の協力者にも恵まれ、今までの所きわめて順調にきているので、この点に重点を置いて研究を遂行して行く。本年度からの後半部分は、当初よりその予定であり、大きな計画変更ということではない。また調査結果の分析、考察等を効率化して、成果をより多く迅速に具体化して、出来る限り数多くフランスでの発表を心がける。フランスでの講演や学術論文をフランスでの出版物に掲載することが重要目標の一つとなる。また方法論をめぐる日仏シンポジウムを目指したフランスとの協力関係も考える。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 16 件)

- ① NISHIDA, Masatsugu, « Deux salles capitulaires jumelles en Provence : l'abbaye cistercienne du Thoronet et l'abbaye bénédictine de La Celle - Étude métrologique sur la problématique de la « copie » et le lien des ateliers pour l'architecture du Moyen Age - », Mélanges Barral, 2011 年出版予定 (掲載決定済)、査読有
- ② NISHIDA, Masatsugu, « Composition architecturale » projetée sur le sol :

étude métrologique du projet architectural dans le cas de quelques petites églises clunisiennes à nef unique en Bourgogne », Actes du Colloque : Troisième colloque international de Paray-le-Monial, « Hugues de Semur, Paray-le-Monial et l'Europe clunisienne (XIe-XIIe) », 2010 年出版予定 (掲載決定済)、査読有

- ③ 西田雅嗣, 「フランス中世建築史-フランスにおける中世建築研究」、建築史学、第 54 号、105 - 129、2010 年、査読無
- ④ 西田雅嗣、竹村紗羅、榎並祐介、岡北一孝、「サン=ポンス・シトー会女子修道院の建築について」、日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系、第 49 号、909 - 912、2009 年、査読無

[学会発表] (計 10 件)

- ① 西田雅嗣, La notion d'« ié (maison) » au Japon, Séminaire cooperative à l'EHESS organisé par Professeur Augustin Berque et JAPARCHI : Notion et Dispositif de la spatialité japonaise, 2010 年 2 月 12 日、社会科学高等研究院 (フランス、パリ)
- ② 西田雅嗣, « Composition architecturale » projetée sur le sol : étude métrologique du projet architectural dans le cas de quelques petites églises clunisiennes à nef unique en Bourgogne, Troisième colloque international de Paray-le-Monial, « Hugues de Semur, Paray-le-Monial et l'Europe clunisienne (XIe-XIIe) », 2009 年 10 月 3 日、パレール=モニアル文化センター (フランス)
- ③ 西田雅嗣, La coordination métrologique et la spatialité dans le cas de quelques petites églises romanes en Bourgogne, XXIIIe Congrès International d'Histoire des Sciences et des Techniques, 2009 年 7 月 29 日、ブダペスト工科経済大学 (ハンガリー)

[図書] (計 2 件)

- ① 長澤泰ほか編、『建築大百科事典』、朝倉書店、2008 年、総頁数 691 (西田雅嗣執筆項目 : 「教会堂-信者が集う神の家」(450-451)、「ロマネスク建築-「神の国」の形」(458-459)、「ゴシック建築-「まことの光」の空間」(460-461))
- ② 日本建築学会編、『建築論事典』、彰国社、2008 年、総頁数 263 (西田雅嗣執筆項目 : 「パラーディオ、アンドレア」(184-185)、「ヴィラール・ド・オヌクール」(126-127))